


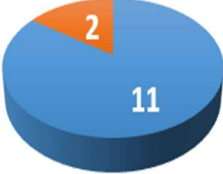






令和5年度 事業者向け 児童発達支援自己評価表(公表)









13/13 回収率 100%







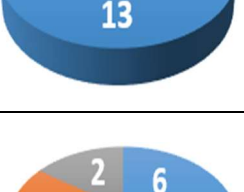

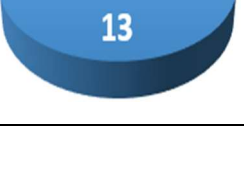
公表 令和6年6月








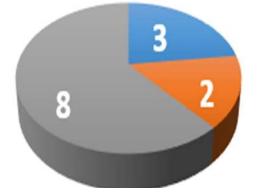
事業所名 中野区子ども発達センターたんぽぽ

		チェック項目	回答結果 ■はい ■どちらともいえない ■いいえ	意見	工夫している点、課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか			十分とは言えませんが狭くもない。
	②	職員の配置数は適切であるか			配置基準を満たしている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか		仕方ないことではあるが、奥の水道でお子様の手を洗う際少し不便に感じる時がある。	構造的な部分での改善は難しいと思われるが、使いづらさを感じている部分は工夫して対処したい。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子供の活動に合わせた空間となっているか		手洗い場が汚れていることあり、流しの排水口が臭う。	・改善に向け清掃業者と確認し対応済み ・職員においても汚れ等気付いたら速やかに掃除や整理を行い、活動後の点検においても掃除や教材等の整理を行うことを、全職員で再確認する。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか			業務改善は、案件の内容によって主導する職種(福祉職・看護職・リハ職・事務職)や職制で異なるが、事業担当者会議・専門職会議・職員会議等で職員全員が参画し、迅速に対応する流れにある。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか			ガイドライン保護者評価のほか施設単独アンケートの結果は、職員へ周知し、検討事案においては各会議で検討し業務改善に繋げ、その対応を保護者各位にお伝えしている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか			毎年、保護者会等で報告し法人本部のホームページに掲載し公表している。

	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			第三者委員会を実施し、インシデント・アクシデント分析報告や虐待防止等の各委員会報告等を行い、委員より評価や助言を頂き改善に繋がっている。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		施設側の業務命令と個人の希望の双方を取り入れている。	・業務に支障がない範囲で必要な研修の機会を設けている。 ・個人調書をもとに希望する研修の機会を提供している。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか		その方向性で取り組んでいるが、職員個々のスキルに差がある。	毎月、児童発達支援内容検討会を設けて児童1人ひとりの支援内容やその進捗状況を確認している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		その方向性で取り組んでいる。	某療養介護施設が使用するツールをたんぼぼ版仕様に作成し、試用を重ね改善を図る。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか			・集団療育をメインとしており、曆事(季節)・自然(散歩、園芸)・運動(ムーブメント、レクリエーション)・リラクゼーション(スヌーズレン、アロマ、マッサージ)・創作(感触、製作)・視聴覚(音楽、楽器)など万遍に取入れ、お子様に偏りなく提供する中で、個別に合わせた支援を行っている ・就学や保育園等を併用される場合は、申し送りを行い、他機関との連携・情報共有においても積極的に参加し支援に繋がっている
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか			日々のケース記録は、個別支援計画の支援内容を記入する書式としており、支援内容の実施状況が確認できる。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか			個別に相談して立案しているが、チームとして立案ができていない状況ではない。ただ、福祉職以外に活動案を求めたり、個別リハで実施したことを活動の中で取り入れている。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか			利用児が楽しく活動参加ができるよう定期的に見直しをする機会を設け、バリエーションを増やしていく。

⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか		集団活動主体、個別活動(リハ、他)も取り入れている。	原則は集団療育をメインにしている為機会が少ないが、必要に応じてグループ分けや個別の対応を行う。食休みの時間は個別対応ができています。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか			出勤時間により参加できない職員もいる為、フォローしていく。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りはあまりないが、朝の申送りや活動記録などで情報共有している ・放デイの児が多いこと、児発利用の児が少ないこともあり、記録上での振り返りを行っている ・個別や片付けながら行うことはある、時間が取れていない ・終了後打合せ、振り返りは全員で行っていないが、気づいた点がある際はリーダーへ報告し共有している 	当日の利用状況により、できない場合には個別での対応や朝の打ち合わせで共有できるようにしている。また、各自が活動記録を確認することをルーチン化している。
⑲	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか			<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤職員においては日々の個別記録を見る機会がない為、その分を振り返りや打ち合わせでフォローしていく。 ・職員により記録の仕方や内容に差がある為、記録の際は前回の記載内容を把握した上で個々の支援内容に沿った記録を行うこととし、記録内容に連続性を持たせる記録方法の平準化を図る。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか			<ul style="list-style-type: none"> ・日々の記録の際、支援計画実施内容をチェックしている。 ・モニタリング時期にはケース会議を行い、見直しをしている。 ・保護者の要望を聞きつつ、計画を見直す場合もある。
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか		モニタリングの聞き取りなどで情報共有はしている。	対応できる職員を増やしていき、情報共有を強化していく。
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか			実施している。
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			<ul style="list-style-type: none"> ・囑託医、児童の主治医とは保護者を介して、就学に向けては学校との連携は行っている。他の関連機関に関しても必要に応じ連携し対応している。 ・関連機関の依頼に応じて見学を受け入れている。

関係機関や保護者との連携	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか		係わりが少なく保護者からの指示を基に支援をすることが多い。	利用児童はそれぞれに主治医を有しているため、保護者を介して主治医の医ケア指示書(当事業所様式)を頂き、保護者より事業所の嘱託医と看護師へ係る手技等をレクチャーして頂いている。
	㉑	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		・利用児が保育園を併用する場合は資料をお渡ししている ・児童の移行先の依頼に応じて行っている	依頼に応じて対応している。
	㉒	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		・利用児が保育園を併用する場合は資料をお渡ししている ・児童の移行先の依頼に応じて行っている	依頼に応じて対応している。
	㉓	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		最近あまり係わりが無い。	・頻度は少ないものの、必要な研修参加はしている。 ・対象児が、重症心身障害児で要医療的ケアも含むため積極的な意見交換等を行っていない。 ・一部であるが他事情所との連携ができています。
	㉔	保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		・易感染症の利用児が多く積極的交流は控えている ・感染症などに不安がある	利用児童(重症心身障害)の特性から、感染症の心配もあり慎重に対応したいと考えている。その上で前向きに検討したい。
	㉕	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか			構成メンバーなのでその都度参加している。参加した者は内容等を職員会議で周知している。
	㉖	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか		主に連絡帳で情報共有を行っている。	年2回の面談以外でも連絡帳や電話連絡、リハでの情報伝達は細やかに行うよう心掛けている。
保護者への	㉗	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		・子どもに必要なことに関するアドバイスは行っているが保護者の力をつけるようなアドバイスはあまりできていないと思う ・保護者・職員により差があると感じる	ペアレント・トレーニングとまではいかないが、諸々のご相談やご質問等に対し、その都度対応している。
	㉘	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか			・契約時や変更あった場合には、面談や保護者で説明を実施している。 ・運営方針や運営規程、苦情窓口など玄関エントランスホールの壁に掲示している。

説明責任等	③③ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか			実施している。
	③④ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか		・相談があれば対応、対応範疇を超える場合関連機関等ご案内する ・保護者により差があり	・日々の連絡帳・面談・健診・個別リハビリ等で必要な対応を行っている。 ・日常会話などを通して相談しやすい雰囲気を作っていく。
	③⑤ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			・保護者会開催時に保護者懇談会の時間を設けている。 ・児童発達支援から放課後等デイサービスへ利用移行する流れにあるので、合同保護者会を企画し保護者及び情報の交流を図りたい。
	③⑥ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか			保護者会、各アンケート、連絡帳、電話等で頂いた相談や申し入れについては、迅速に対応するよう努めている。また、ご意見箱の設置や苦情処理システムをエントランスホールに掲示している。
	③⑦ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか			日常的には、連絡帳や電話で情報交換しているが、月の予定表やたんぼぼだよりを年 4 回発行している必要に応じて、書面やメールで連絡事項をお伝えしている。
	③⑧ 個人情報の取扱いに十分注意しているか			・個人情報保護法に基づき対応している。 ・日常的な記録、メモの取扱いには十分注意する。
	③⑨ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか			職員には子供の些細な動きから発信される意思を読み取る観察力と洞察力を養うため、職員間で検証の機会を設けるなどの努力を求めている。
	④⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		今はできていない	対象児の特性上、積極的な実施は難しいが、感染症の状況を見ながら、少しずつ関わりの機会を設けていきたい。

非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか		<ul style="list-style-type: none"> ・不十分ながら訓練を実施し検討している ・より具体的に行う必要あり ・いつ起こるのかわからないものなので周知せず急に初めて見るのもありかも知れない 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員への周知はできているが、保護者への周知はたんぼぼだよりで実施内容や経過報告も含めてお知らせする。 ・緊急医療情報連絡票を作成している(緊急時に丸一日たんぼぼで過ごすことを想定し、緊急連絡先や児の一日の生活の流れなど記入) ・より具体的な訓練を実施していく。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		<ul style="list-style-type: none"> ・時期によりできていないこともある ・より具体的に行う必要あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・不足している部分はあるが、概ねの備えと訓練は実施している。 ・月1の防災訓練の取組み、今一度それぞれの動きを確認していく。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか			<ul style="list-style-type: none"> ・新規児童より予防接種実施の確認表を使用し把握に努めている。 ・把握している内容は医ケア一覧表に記載しており、ケースファイルでも確認が可能である。各自が確認及び看護師に確認していく。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			<ul style="list-style-type: none"> ・利用契約前の健診や初回通園時等で必ず確認を行っている。 ・対応方法は緊急医療情報連絡票・フェイスシートに記録している。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか			<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット等が発生した際、回覧用報告書で素早く周知する体制にある。 ・毎月の事業担当者会議で改善策を立て施設長の承認を得て、全職員が確認の署名を終えてファイル化している。 ・毎月の職員会議で件数・内容を確認し、年度末に集計・分析を行い予防に繋げている。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか			<ul style="list-style-type: none"> 行政が開催する虐待防止・権利擁護・身体拘束の適正化等の研修に参加し、その内容は職員会議で周知する。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		<ul style="list-style-type: none"> ・対象児がいた時は行っていた ・対象児なし、対応は決めている 	<ul style="list-style-type: none"> 対象児がいる場合には、速やかに身体拘束に関する説明及び同意書の作成を行い、職員間及び囁託医と共有の上、保護者への説明と同意を得る手順にある。また、その内容等は期間を設け見直していく。